岐阜県嚥下障害研究会

モグモグ通信

No. 15（2010. 1 発行）

第13回学術講演会は、11月に大垣にて開催予定です。

発行所：岐阜県嚥下障害研究会
事務局：木沢記念病院 ST室

研究会に入会して

岐阜県歯科医師会
地域医療委員会　河村二郎（河村歯科医院）

モグモグ通信読者の皆さん、こんにちは、岐阜県歯科医師会地域医療委員会より、出向という形で入会させていただきました。浅学菲才な私ですが、しっかり勉強させていただきたいと思います。

美濃加茂の地で開院させていただき２０年の月日がたとうとしております。「キュアーからケアーへ」「治療から予防へ」、また居宅、介護施設等々への、訪問診療の需要拡大等で私どもの診療体系もずいぶんと変化してきました。歯科医院で通院される患者さんを治療していればいい時代から様々な事由で来院できなくなられた患者さんに、歯科医療を提供しＱＯＬの維持、口腔機能の回復に努めるのが我々、歯科医に求められております。私もそのニーズに応えられるよう取り組んでまいりましたが、時には診療がうまく展開し、患者さん、ご家族に感謝され医療人として喜びを感じることができますが、多くは「もっとしてあげられることは、」と、自分の無力を感じ訪問診療、口腔ケアのスキルアップの必要性、また歯科だけでなく様々な医療関係者との連携の必要性を痛感しています。ただ、痛い歯を抜いたり、壊れた入れ歯を修理してというだけの訪問診療から、摂食嚥下機能の低下された方、経管栄養の方々が人間として口からおいしく食事していただけるように私ども歯科医も積極的に関わっていかねばなりません。

そのような背景の中、今回この研究会に入会させていただいたことは大変ありがたい出来事でした。まず１１月の理事会に参加させていただきましたが、皆さん御自分の仕事でお疲れのところ県下各地から集まり、高山大会に向け熱く議論しておられました。初対面の方たちばかりでしたが、皆さんの熱意は十分すぎるほど伝わり「自分も医療人として原点に戻りがんばろう！」と、感じました。自利のためでなく、他利のために活動する素晴らしい熱い会だと思いました。純粋さを感じるのは、豊島会長をはじめ皆さんの人柄と、日頃の仕事への誇りからでしょうか。高山大会では、前日の設営等は参加できませんでしたが、懇親会から参加させていただき、皆さんの熱い想いを感じ楽しいひと時を過ごしました。

本当に皆さんの手作りの大会で皆さん全員の、自然に手、体、口が動いているなと感じました。１２回の重みでしょうか、講師の選択も素晴らしくお二人とも日ごろの診療姿勢が目に浮かぶようでした。講演後、控え室で、尾本先生の、ある障害者の治療から自分の人生が変わったというお話は、詳しくはお知らせできませんがとても感動的でした。

初級課程レポート

日　時　：　平成２１年８月２３日（日）
場　所　：　木沢記念病院　中部療護センター
講　師　：　加藤孝憲氏　川口千治氏　豊島義哉氏
（副会長）　（理　事）　（会　長）

口から食べる幸せ

土岐市老人保健施設やすらぎ

管理栄養士　田中見和

第12回摂食・嚥下リハビリテーション講習会初級課程の研修会に参加しました。

私がはじめてこの研修会に参加したのは、4年前です。当時、はじめて老人施設で勤務することとなり、食事時間にフロアでラウンドをするなかで、「この利用者さんにとって、この食事形態があっているのだろうか」「毎食提供しているこの食事は、誤嚥や窒息を起こさない安全な食事になっているだろうか」と疑問に思い、嚥下についてもっと勉強したいと思いました。

特にこの初級課程の講習会は、勉強不足の私にとって、基礎から教えていただけるので、とてもわかりやすい研修会です。

嚥下についての講義では、嚥下障害の病態、原因、誤嚥のタイプ、嚥下訓練法や食事指導法まで幅広く、実際の嚥下造影の影像も交えながらの講義でした。

今回の演習で一番印象に残ったことは、きざみ食は誤嚥しやすい食事形態であることは、以前から言われていますが、実際かっぱえびせんを使って、体験してみると、身をもって危険を感じることができました。改めて今後の食事形態において検討していく必要があると思いました。

口腔ケアについても演習がありましたが、食事を安全においしく食べるためには、大切な事です。

今回の研修会に参加し、栄養士としてまだまだやらなければならない事がたくさんあると、実感しました。今後も他職種と協働し、口から食べる幸せを感じていただけるように、努力していきたいと思います。

口腔粘膜のケア方法

第12回学術講演会抄録集より

唾液や清掃のための水分等を誤嚥させないように十分な配慮が必要です。清掃用具は水切りをしっかり行ってください。スポンジブラシは回転させながら使いましょう。

口唇：乾燥、ひび割れ→十分な保湿
付着物→水、保湿剤などで湿潤させ十分軟らかくした後、指に巻いたギョーザガーゼ、スポンジブラシなどで清掃

舌、口蓋：乾燥→十分な保湿
舌苔、痰、付着物→水、保湿剤などで湿潤させ十分軟らかくした後、柔らかい歯ブラシ、ギョーザガーゼ、スポンジブラシなどで奥から手前に清掃

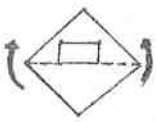
＊注意：痛み、出血の危険性があるので、強くこすったり無理にはがさない。
油性の舌苔等（総合栄養剤の逆流等）強固な場合、オイル類を塗って汚れを浮き上がらせる方法もあります。
（歯科医、歯科衛生士に相談してください）

頬粘膜：食物残渣→柔らかい歯ブラシ、ギョーザガーゼ、スポンジブラシなどで奥から手前に掃き出すように清掃

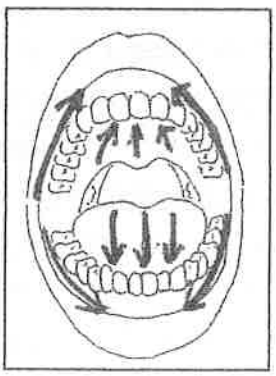
＊注意：誤嚥の恐れがあるので、口腔内に落下させない。

▲スポンジブラシ

清掃方法例▼



①15cm角に切ったガーゼの中央にカット綿を置く　②半分に折る



③人差し指をカット綿の上に置く　④上の△部分を下に折り、ガーゼの両端を指に巻きつける

成人勉強会
レポート

日　時：平成２１年１０月４日（日）
場　所：木沢記念病院　中部療護センター
内　容：「重力への適応～生きる力を蘇らせる働きかけから～」
講　師：冨田　昌夫氏
藤田保健衛生大学医療科学部　教授　理学療法士

ライトタッチが深部を刺激!?

安江病院
言語聴覚士　大川　靖子

第一回成人勉強会「重力への適応～生きる力を蘇らせる働きかけから～」のテーマにて、藤田保健衛生大学医療学部　富田昌夫先生（PT）にご教授いただきました。筋の機能的連結についての専門的な講義に ST の私は、ついていけるのかと心配になりましたが、実技指導では「もうちょっとだけ、動いてくれよ～」とあれよあれよとほぐしてしまう、まるでマジックのような先生の手技に「私もお願いします！」と、引き込まれていました。

「食べること」は、首から上の口腔器官だけをみるのではなく、各筋の機能連結、内蔵機能、情動、呼吸など全体で捉えていくことが重要であり、動かない部位を無理やり動かそうとするのではなく「感じてもらう」こと、「小さな振動こそが深層の筋〔安定筋〕に影響を及ぼす」ことを学びました。

しかし、それを病棟でどのように応用したらよいのか分らず、患者様の後部伸展している頭をゆらしてみるもうまくいかず、よし！私も一緒にゆれてみよう！と抱きかかえてゆらゆら歌えば、こころなしかカチカチの首も顎が引けて、なんだかいい感じにポジショニングすることができました。

外来の患者様には、フラセボ効果のお話を思い出し、「動くからね！」と暗示をかけ、座位姿勢のまま腰を回すようにからだ全体で揺れてもらうと、麻痺側の手指にも変化が・・麻痺～8 年出来なかったじゃんけんのパ～が出来るようになりました。手技が効いたのか？偶然なのか？は定かではありませんが、深層部へ働きかけが、真のリラクゼーションを導き、適応した動きが可能になることを実感しました。

「動かないのは情動が関係している」「全体を捉えていく」「決してあきらめない」という学びは、日頃、手技の限界を感じていた私に、新たな知識と情熱と意欲をいただく機会となりました。今後も大きな視野と気持ちで知識を習得していきたいと思います。貴重なご講演をありがとうございました。

第12回学術講演会・総会の風景

開催日　：　平成２１年１１月２２日（日）
会　場　：　高山市民会館内　高山公民館
特別講演　：「子どもの摂食・嚥下障害
～その理解と援助の実際～」
講師：尾本　和彦先生
心身障害児総合医療療育センター　歯科医長
企　画　：歯科衛生士による口腔ケア体験コーナー

教育講演　：「高齢者の嚥下障害への対応
～嚥下と呼吸の協調／リスク管理～」
講師：鎌倉　やよい先生
愛知県立大学看護学部長　教授

▲ 恒例となった口腔ケア体験コーナー

スタッフ一同です⇒
「来年は、大垣で
お会いしましょう」

― 編集後記 ―第12回学術講演会高山大会を盛会の中、終えることができました。これも会員ならびに関係者の皆様の摂食・嚥下障害への関心の高さの賜物と感謝申し上げます。なお、口腔ケア体験コナー担当者より、ギョーザガーゼの大きさを10cm角ではなく15cm角に訂正をとの連絡がありましたので、訂正ならびにお詫びいたします。（T．Y）